

特別企画一覧

特別講演

9月30日(土) 16:20~17:20 第1会場

司会: 梶山 広美 (愛知県臨床検査技師会会長)

『血中タンパク質 AIM による

生体内異物除去機構を基盤とした新しい疾患治療の展望』

東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター

分子病態医科学部門 教授

宮崎 徹

公開講演 1

9月30日(土) 13:00~14:00 第1会場

司会: 中根 生弥 (愛知県臨床検査技師会副会長)

『クロマグロ完全養殖技術 – 過去・現在・未来 – 』

近畿大学大学院農学研究科

水産研究所 教授

澤田 好史

公開講演 2

10月1日(日) 10:50~11:50 第1会場

司会: 所 嘉朗 (愛知県臨床検査技師会副会長)

『チョコレートで美味しく健康になろう』

株式会社 明治 食機能科学研究所

機能性評価研究二部 課長

夏目みどり

特別講演

血中タンパク質 AIM による生体内異物除去機構を基盤とした 新しい疾患治療の展望



東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター
分子病態医科学部門 教授
宮崎 徹

生体内では、細胞の癌化や細胞の死、過剰な脂肪蓄積やタンパク質の変性など、生体にとり好ましくない、さまざまな異常が常に発生している。このような異物・不要物は通常マクロファージを始めとした貪食細胞によって速やかに除去され、組織の修復が誘導されることにより、生体の恒常性は維持されている。この異物除去機構に障害があると、異物の蓄積により正常な組織構築が崩れるとともに、二次的な炎症や線維化が惹起され、“異常”は様々な“疾患”となる。私たちは、血液中に存在する AIM (Apoptosis inhibitor of macrophage) が、貪食細胞による異物認識とその速やかな除去の要として働き、それが脂肪肝、肝細胞癌や急性腎障害の抑制や治療において重要な役割をはたしていることを見出してきた。今回の講演では、AIM が多くの難治性疾患の新しい治療法となる可能性と、血中 AIM 値の疾患マーカーとしての有用性について討議したい。

※AIM は、体の中で血液細胞の一種であるマクロファージだけが特異的に産生する分泌蛋白。マクロファージ自身のアポトーシスを抑制して、細胞を長生きさせる作用がある。ヒト血液中には通常 5~10 μ g/mL 程の AIM が存在している。

本特別講演を通して、会員の皆様に最先端の医学研究に触れていただく機会とさせていただきますと幸いです。

ご略歴

1986年 東京大学医学部医学科卒業
1986年 東京大学医学部附属病院第三内科入局
1993年 熊本大学大学院医学研究科博士課程修了
1992-1995年 Institute of Genetics and Molecular/Cellular Biology (IGBMC) /
University of Pasteur University of Pasteur(フランス・トブル) ポスドク研究員
1995-2000年 Basel Institute for Immunology (スイス・バーゼル)リサーチメンバー
2000-2006年 The University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas
(米国・ダラス)准教授
2006年 現職

代表論文：

*Nat.Med.*22: 183-193, (2016). *Cell.* 163: 1413-1427, (2015). *Cell Rep.*9: 61-74(2014).
*Nat.Commun.*4: 1836(2013).

公開講演 1

クロマグロ完全養殖技術 – 過去・現在・未来 –



近畿大学大学院農学研究科・水産研究所
教授 澤田 好史

日本は世界のマグロ類総生産量の約 1/4 を消費する世界一のマグロ消費大国であり、世界の限りあるマグロ資源に対して大きな責任を負っています。現在、歴史的に最低の水準に近い太平洋のクロマグロ資源については、これ以上天然資源を減らすことなく消費者に供給できる“クロマグロ完全養殖技術”が必要とされています。この完全養殖技術は、近畿大学が世界に先駆けて開発し、40 年以上の年月を費やして研究を続けていますが、まだ道半ばです。今回の講演では、その技術開発の経緯、内容、現状、ブランド化、そして今後の展開についてご紹介し、大学における、日本の得意な科学技術分野である食糧生産の研究と、その使命である人材育成についてご理解を賜りたいと存じます。

ご略歴

- 1982 年 京都大学農学部水産学科 卒業
- 1991 年 京都大学大学院博士後期課程 修了
- 同 年 京都大学 研修員
- 1994 年 近畿大学水産研究所 研究員
- 1995 年 近畿大学水産研究所 助手
- 1999 年 近畿大学水産研究所 講師
- 2002 年 近畿大学水産研究所 助教授
- 2008 年 現職

公開講演 2

チョコレートで美味しく健康になろう



株式会社 明治 食機能科学研究所 機能性評価研究二部
課長 夏目みどり

私たちは、これまでチョコレートの原料であるカカオ豆に含まれるポリフェノールに抗酸化等の機能性があることを明らかにしてきました。2014 年には、産官学連携プロジェクトとして、蒲郡市内外の一般市民 385 人を対象とした前向き研究を行った結果、カカオ分 72%のチョコレートを 4 週間食べていただくことで血圧が低下すること等が分かってきました。さらに、20 人の便秘気味の女性に同じチョコレートを 2 週間食べていただくことで、便通が改善する可能性があることも分かってきました。本公開講演では、これまでの私たちが行ってきた試験結果を中心に、チョコレートが持つ健康効果について紹介致します。

ご略歴

1989年 名古屋大学農学部食品工業化学科卒業
同 年 明治製菓株式会社入社
2008年 名古屋大学博士（農学）
2011年 株式会社 明治に社名変更